

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 新南 小学校
校長氏名	平野 政幸
作成日	平成 31 年 2 月 27日

1 教育目標

豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育成する

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> よくわかる授業、子供主体の授業を実践したと思う。(児童、教師80%) 県学習到達度調査で正答率が県平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる。(児童90%) 学校は、いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいると思う。(保護者80%) 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果、学年、男女別に見たTスコアが、全国平均あるいはそれを上回る種目が半数以上。 朝ごはんを必ず食べる(児童100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった。(保護者80%) 地域の方にも、あいさつができる。(児童80%)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎基本の確実な定着 ◎子供主体の授業の推進 ○読書活動の推進 ○家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳教育・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止・早期発見 ○互いのよさを認め合う仲間作りと集団活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の取組の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○外遊びや運動に親しむ機会の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携推進 ◎情報の積極的な発信 ○地域資源の積極的活用の推進
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本が確実に身に付くよう、指導方法の工夫改善と、どの子にもわかる授業の実践に努めた 子供が主体的に学び、伝え合う学習を目指した授業づくりを目標に、国語の研究授業を担当全員が実践し、秋には研究発表会を開催した。 「昼の一斉読書」や「読み聞かせ」「うちどく」を通して読書意欲の向上と読書環境の整備に努めた。 漢字検定が定着し、児童が意欲をもって漢字学習に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業の工夫改善に努めながら、自己を見つめ、自分のよさを伸ばし、他を思いやる心を育む指導に力を入れた。 児童が互いのよさを認め、どの子も安心できる学級作りに取り組んだ結果、仲間意識や人権意識が育った。 子供同士が関わり合う行事や集団活動を通して主体性と協働性を育てた。 児童との日常の何げない会話や触れ合いを大事にしながら、いじめの未然防止、早期発見に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の工夫改善や運動の機会を増やすことで、意欲的に運動に親しめた。 運動会が近づく休憩時間も、リレーや徒競走の練習に励む姿が見られ、児童の意識の高まりが見られた。 「なわとびカード」が励みとなり、より難しい技に挑むなど、なわとびに親しむ機運が広がり、冬場の体力向上につながった。 「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣の大切さを保護者に伝え、その啓発に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、HP等で学校の様子について積極的に発信することができた。 交流給食や集会にお招きし、地域の見守り隊の方々へ感謝を伝えたり、地域の行事に参加したりして交流した。 児童が地域に出向き、地域の学習を深めたり、地域の方が学習に関わったりする機会を設けた。 地域の方々に運動会、集会、人権教育講演会等を知らせ、参加を呼びかけた。
取組の成果と課題【評価結果】C】	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日の勉強がわかるか」という児童アンケートでは、「はい」は86.8%あり、一方、職員アンケートから「子供主体の授業実践に努めた」という回答が80%以上あり、目標達成できた。 県学習到達度調査の結果、4年生は国語、算数とも県平均より2ポイント下だった。5年生は、国語はほぼ県平均並み、算数、理科は県平均を上回っていたが、基礎基本の習熟に課題が残る。 国語科で考えを伝え合う学習に力を注いだ結果、子供達の表現力が伸び、話し合いを進める力がついてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートでは、「学校が楽しいと感じる」と答えた児童が98%いる。これは、どの子も安心できる学級づくりに取り組んだ成果といえる。 全体的に、人にやさしく、助け合う校風ができてはいるが、ごく一部に、人を傷つける発言や行動をする児童が見つけられ、なお課題が残る。 保護者アンケートの「学校は、いじめをなくす取組をしているか」で「はい」と答えた保護者は65.9%と低く、いじめへの取組についてなお課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を見ると、学年、男女別に見たTスコアが全国平均を下回る種目が半数以上あり、全体的に運動能力の低さが課題である。とくに、握力、反復横跳び、シャトルラン等の種目が目立つ。しかし、50m走、ソフトボール投げなどでは改善が見られ、全国平均を上回る結果が出ている。 「早寝早起き朝ごはん」の啓発を、児童および保護者に向けて行っているが、アンケートで「朝ごはんを毎日食べる」と答えた児童は93%で、目標に届かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「学校の様子がよく伝わったか」に対し、「はい」と答えた保護者が78.9%(昨年74.6%)とやや増加した。 3年生が「ふれあい食事会」に招かれ、地域の高齢者の方々と交流し、大変喜ばれた。 子どもセンター主催の「親子もちつき大会」に地区民生委員会の協力を得て、地域の方々が多数参加してくれた。市長も来校され例年以上に盛り上がった。 図書ボランティアの方々が、本の修理や手作り椅子、掲示物等の製作に積極的に取り組んでくださった。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確実な定着を図るため、指導方法の工夫改善とわかる授業の実践に最大限努める。 子供主体の伝え合う学習を目指した授業づくりに全職員で継続して取り組み、研究授業や研究発表会でその成果を問う。 読書環境を充実させ、児童の読書意欲の一層の向上を図る。 自主学習ノート等を活用し、家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や人権教育の一層の充実を図り、相手を思いやり、いじめを許さない心情を養う。 自己肯定感を育み、適切なコミュニケーションがとれる児童の育成をめざす。 いじめが起きた場合、児童双方への指導を迅速に丁寧に行うとともに、保護者との連携を密にして、学校の取組が十分伝わるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業では、楽しみながら運動に親しむとともに、運動量を十分保障する場の工夫や改善を進め、バランスのとれた運動能力の向上に努める。 体力テストで、自己ベスト記録を出せるよう事前の意識を高める。 「早寝早起き朝ごはん」の習慣の大切さについて啓発を進め、「朝ごはんを毎日食べる」比率を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便り・HP等を通して、学校の様子を積極的に発信するとともに、学級懇談会等の機会を活用し、保護者が聞きたい子供達の様子がより一層伝わるように努める。 児童が地域に愛着がもてるよう、今後も地域との交流を積極的に続ける。 見守り隊の方々に、児童が元気よく挨拶ができるよう粘り強く指導する。

3 その他の課題

少子化の影響や保護者の転勤による転出等のため、児童数が少しずつ減ってきている中、学級編制が1クラスになる学年が、平成31年度には3年、6年と二学年ある。多人数になる学級で、一人一人の児童への支援が行き届きにくくなるのが懸念され、人的な支援を市に要望していかなければならない。このほか、学級減による学校運営上のさまざまな課題がある。